

## 医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No. 3

## 異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡

子宮内ではない場所に受精卵が着床し（異所性妊娠）、卵管破裂による出血性ショックのため死亡した事例が体外受精で 2 例、自然妊娠で 1 例報告されています。

	対象事例の概要
事例 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40 歳代。体外受精で 2 個の胚移植を実施。</li> <li>・ 腹痛と嘔吐を主訴に救急要請し、救急外来を受診。患者から「産婦人科を受診し、妊娠 8 週相当で胎児心拍を確認した」と情報あり。感染性胃腸炎と診断し、制吐剤と補液で経過観察。翌朝、頻脈・血圧低下・性器出血あり。数時間後に心停止となった。自己心拍再開後に CT で腹腔内出血、卵管出血が疑われ、子宮動脈塞栓術を施行したが数日後に死亡。</li> <li>・ 死因は、卵管間質部破裂による出血性ショック。解剖有、Ai 有。</li> </ul>
事例 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30 歳代。 自然妊娠。</li> <li>・ 性器出血のため受診。妊娠反応陽性だが、胎嚢不明であり切迫流産と診断。4 日後、性器出血が増量しエコーで胎嚢様の所見を認めたが断定は困難。数日後、自宅で「塊」が出たため再受診。胎嚢様の所見は消失しており、流産と診断。さらに数日後、腹痛があり、また検査薬で妊娠反応陽性となったため受診。経膈超音波検査で、流産後の経過と判断され帰宅。最終受診より約 1 週間後、自宅で倒れ搬送先で死亡確認。</li> <li>・ 死因は、卵管破裂による出血性ショック。解剖有、Ai 不明。</li> </ul>
事例 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40 歳代。体外受精で胚移植を実施。</li> <li>・ 胚移植 9 日後、尿妊娠判定を実施し、陰性を確認。数日後、月経がきたため、次のホルモン剤の使用を開始した。約 2 週間後の受診時、経膈超音波検査を実施し、その際患者から腹痛等の訴えはなかった。翌朝、経験のない強い腹痛、嘔吐、下痢があったが、医療機関を受診しなかった。その翌日、自宅で死亡した。</li> <li>・ 死因は、卵管破裂による出血性ショック。解剖有、Ai 有。</li> </ul>

【略語説明】 Ai : Autopsy imaging(死亡時画像診断)